

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800528		
法人名	社会福祉法人 三井福社会		
事業所名	ナイスケア檜の木		
所在地	山梨県甲斐市長塚157-3		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が穏やかに毎日を過ごせるよう、常に清潔を心掛け、施設でありながら自宅を思わせるような雰囲気となっております。母体施設の栄養士の協力によるバランスのとれた食事提供により、皆と一緒に楽しみながら、おいしく食事を頂く事を日々の暮らしの中で特に大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの良さを十分理解し、広いリビングスペースの利用、互いのユニットの交流レクリエーションには工夫の成果が見られる。一人ひとりにゆったりと話しかけ、笑顔で“ここが一番”と言われた利用者の話が印象的であった。建物の構造は、普通の家とは異なり、色々なところに、日常過ごしやすい配慮として、広いリビング、中庭、自然光の入る天窗、開閉の優しい部屋の入口、1人でも入浴を楽しめる入浴室スペースなど様々な構造で過ごしやすさを感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 ナイスケア榎の木

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所に掲示しており、共有し実践に努めている。理念のほか各職員に年間目標を考えてもらい、多数決により決定した目標を実践につなげている。	理念に基づき、質の高いケアをする為に、問題点などスタッフ会議で話し合い実践につなげている。	皆で話しあって年間目標を決め、利用者のベースを大事にし、認知症の方に寄り添うケアを実践し、表情などで思いを感じ取れるように全員が努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等は準備の段階から参加し、交流を図っている。ホームの行事にも参加して頂いている。	散歩や買い物を通して交流を図っている。	近くの美容院、商店、喫茶店に利用者が行くこともある、地域の避難訓練や祭りの準備に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事を通して交流を図ることによって認知症を理解していただき、地域の祭り参加の際支援をいただいている。	地区の行事(夏祭り、福祉大会)に参加し、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、市課長、自治会長、民生委員、家族代表、利用者代表、職員で開催している。意見交換、自治会からの報告等を行い、サービス向上に努めている。	二ヶ月に一度の運営推進会議を開催し意見交換を行っている。	自治会・民生委員・家族に対し認知症やAEDの使い方・交通安全等の研修を開催している。AEDが事業所にあることを地域の人に分かるよう表示をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス等について疑問点などあった場合はその都度、連絡、役場に出向き指導をいただいている。	疑問等あった場合、相談している。	2か月に一度開催される市内のグループホームとの意見交換会で、様々の課題が議題に取り上げられている。市の地域包括支援センターから利用希望者の相談も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量が激しい道路に面しており、家族からの要望もある為、玄関は施錠している。リビングの施錠は行わず自由にテラスへ出られるようにしている。職員会議で定期的に勉強会を行っている。	センサー音や利用者の行動に注意を払い、声かけもスピーチロックにならないように取り組んでいる。	事業所内の3ヶ月に一度の認知症研修会で、スピーチロックに関する話が話され、身体拘束に関する外部研修にも参加している。スピーチロックには、職員同士が言いにくいこともお互いに注意しあう関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設のマニュアル、新聞記事等を会議の際に取り入れている。スピーチロックについても職員間で注意しあえるような関係作りをしている。	スタッフ会議を通じ、勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「やまなしの福祉」「リーガルサポート」の資料、また、実際に成年後見制度を利用している方の事例等で、施設内研修を行っている。	外部研修会へ参加し、スタッフ会議で研修報告を行い、内容を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族からの不安、疑問点などを伺い、説明を行っている。	契約、解約等その都度、十分な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・意見箱を設置している。 更新時にはカンファレンスを行っている。	要望等を遠慮なく言えるように、玄関前には意見箱を設置し、来所された際にも伺っている。	家族が訪問した際の報告書には、家族からの話しを青字で記録するなど、見やすくする工夫をしている。報告書はカンファレンスなどで活用している。筋力トレーニングや下肢体操の要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回スタッフ会議を行い、意見交換をできるようにしている。 疑問点、問題点等が生じた場合は、その都度話し合える場を作っている。	スタッフ会議、ユニット会議等で意見交換している。	月2回のケース会議で、一人ひとり意見を言うことにしている。失禁の多い利用者に対するケアの方法改善や外部研修への参加希望を話したりし、引継ぎノートの記入方法も確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間の厳守・有休の消化・勤務希望勤務変更を行えるようにしている。	有休消化できるようにしている。休憩室でゆっくり休めるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修・勉強会の積極的な参加を促している。 資格取得等の相談・助言等を行っている。	外部研修等、積極的に参加できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加を促し、同業者の相互訪問の制限は行わず、交流が図れるよう努めている。三ヶ月に一度、市役所にて甲斐市内のグループホームの情報交換会があり参加、交流を図っている。	研修の参加を促し、相互訪問の制限は行っていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、本人と直接話しをし、聴く機会を設けている。	面接の際、聞き取りや把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問を行い、聴く機会を設けている。	自宅訪問や電話などで相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人の心身の状況を確認し、サービスの内容の説明を行っている。	本人の身体状況等も含め家族の意見を聞きながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活を送る中で、喜怒哀楽を共有できる関係作りに努めている。 利用者のできる事を見極め、家事の手伝い等を職員と一緒にしている。	一方的にならないよう、自己決定をしてもらうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・カンファレンスの際に本人の状況報告を行い、共に協力しあう関係を築いている。	面会に来所された時や、それ以外でも連絡をとり報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	止むをえない場合を除き、面会の制限は行わず個別に合わせ支援している。公衆電話、携帯電話の利用は自由に行える。	友達の面会や外出等支援をしている。	馴染みの俳句会や地域の盆踊りには、近隣住民の協力を得て参加している。近所の店も気楽に利用者に対応してくれている。知り合いからの年賀状の返事も職員の支援で書いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のペースを尊重している。コミュニケーションが困難な利用者には職員がフォローし、支援している。	個々に居室訪問したり、ユニット内を自由に行き来でき、馴染みの関係を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば、相談に対応する体制を整えている。	希望があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりで本人の思い・希望の把握をし、対応するよう努めている。伝える事が困難な利用者は日々の生活から汲み取り、対応している。	意見の言える人には直接伺っている。どのようなケアが良いか本人の立場になって考え、ケアを行っている。	理念に取り上げているとおり、寄り添うケアと利用者の声にならない声を聞くようなケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、本人、ケアマネより情報を収集し把握を行っている。	聞ける利用者には聞き取り、言えない利用者には家族に伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに応じ、声かけ、見守りなど常に様子観察を行っている。	本人のペースを優先し行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員に利用者の「気づき」を記入、提出してもらい、問題点を挙げる。家族面会時には要望等を伺い、介護計画に取り入れている。スタッフ会議で意見交換、アイデアを出し合っている。	認定更新時や身体状況の変化により、担当者会議を開き、意見交換を行っている。	生活を豊かにするケアを基本に、「気づきシート」に記入することで、更新時の計画作成に活かし、家族の要望を反映させている。利用者ごとに評価基準を設けてモニタリングを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜間日誌、ケース記録を活用しながら情報の共有、介護計画の実践に努めている。	利用者と携わっている中での出来事を業務日誌、夜間記録、個別記録等にこまめに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望されている事で、対応ができる範囲で取り組んでいる。	その時の状況に応じてできる事、できない事を把握し、できる範囲で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方が地域婦人部に所属しており、イベント、運営推進会議に出席してくれている。今年度より地域の認知症サポーターが来所し、職員に指導してくれる予定。	ホームのイベント時などボランティアに来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、職員が協力し合い入居前から利用していた医療機関へ受診している。家族からの要望で医療機関の変更の相談等対応している。状態の変化等で家族対応受診の場合は医師に手紙で報告している。	入所前から利用している医療機関へ受診している。	家族が受診対応する場合には、主治医に最近の様子を紙に記入し、受診の結果についても報告をもらっている。歯科については訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医に状態を連絡し、看護師が対応してくれている。	変化があった時はファックスで報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ワーカーと連絡を取り合ったり、必要に応じてカンファレンスを行っている。	病院の担当者と連絡をとり、サマリー等で報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者にとって安心・安全な生活が送れるよう事業所のできる事、できない事を状況に応じて対応している。往診医が必要になれば「終末期」の勉強会を行ってくれる予定。	重度化に対してできる事、できない事の説明をしている。往診医が必要に応じて勉強会を行ってくれる。	過去には看取りは行っていないが本人や家族の同意を得て、主治医や往診医の協力により終末期の利用者を支援したケースがある。今後は必要に応じて終末期の勉強会を行なう予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時におけるマニュアルがある。毎年、救急法の研修に参加している。AEDの使用方法を含めた応急処置の勉強会を行っている。	外部研修会などに参加し、その都度スタッフ会議等で研修報告、勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、火災や地震・夜間の召集訓練を行っている。消防署の協力を得て、火災報知機を使つての訓練も行った。自治会の避難訓練も毎年参加している。	避難訓練等を定期的に行い全職員の危機意識を高めている。	非常時持ち出しザックが5箇所があり、緊急時にはどれかを持ち出すことになっている。事業所前が交通量の多い道路であり、安全には配慮した避難を心がけている。非常食の期限が来ているものは、試食による食事体験をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の心身の状況を把握、確認しながら個別での声かけで対応している。呼び名は本人や家族に聞き、呼び慣れた言葉で声かけをしている。	個室になっており、一人になる時間と共有できる時間を保てるよう、言葉掛けにも注意している。	一人で過せる時間を大事にしている。入浴中には、入浴中表示ボードを用意している。入居時に利用者が呼んで欲しい自分の名前を聞きだしており、姓で呼ぶことが多い。トイレや入浴の誘導には、他の利用者に分らないような配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の心身の状態に応じ、自己決定の機会を持てるように努めている。	個別に居室を訪問し、傾聴したり対話できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の状態、本人の希望に沿って支援するよう努めている。	本人にどうしたいか確認しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ、美容院へ行くなど身だしなみやお洒落ができる支援をしている。隣の薬局へ買い物に出かけ、化粧品サンプルを試し、好みの口紅を購入するなど支援している。	お化粧の声かけ、髪染めの手伝い、定期的にかットや理容室に出かける支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者には毎日のメニュー表を書いて頂いたり、食事の評価表を記録して頂き、メニューの改善に繋がるよう努めている。	メニュー表の記入や個人の嗜好品など栄養士に伝えたり、できる範囲で手伝っていただいている。	食べたい料理が食べられるよう、不評な料理は、栄養士に伝えている。調理イベント(巻き寿司・おはぎ・ほうとうなど)の材料を職員と一緒に買物に行き楽しんでいる。トレーは配膳を自分でできるようすべらないものを使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を記録している。利用者の状態に応じて調理形態を工夫している。法人の栄養士にメニューを作成してもらっている。	メニューは栄養士に作成してもらっている。摂取量は毎回チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じ、毎食後個別の対応を行い清潔保持に努めている。心身の状態で歯科受診が困難な場合は訪問歯科診療を依頼して、口腔ケアのアドバイス等をしている。	毎食後、声かけを行っている。介助を要する利用者には口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ、個別の排泄チェック表を使用し、排泄リズムの把握に努め、誘導・介助を行っている。トイレの場所が分からずに失敗してしまう利用者には自室からトイレまでを目印をつけることで失敗が減ってきている。	定期的にトイレ誘導を行い、排泄チェック表を使用し、パターンの把握に努めている。	リハビリパンツやパットを使わないケアには、利用者の排泄パターンでトイレ誘導し、自立したトイレ利用ができるよう配慮している。日中の失禁は、減ってきている。トイレがわかりにくい利用者には、床に誘導用の、赤線を引き、トイレには大きな表示がされていることで自立トイレを可能にした工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促したり、散歩、毎日の日課として「ラジオ体操」を行っている。個別運動メニューを行っている利用者もいる。運動困難利用者については腹部の暖め、マッサージを行っている。	水分摂取を促し、ラジオ体操などの声かけ。運動できない利用者には腹部マッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度のペースで入浴支援を行っている。無理強いせず本人のペースに応じた声かけを行っているが、拒否が強い場合は清拭での支援を行っている。	朝一番入浴の希望の受入れ、2日に一度の入浴ペースを守っている。無理強いせず清拭している。	日中であればいつでも入浴できる。家族風呂の浴室は、自分で入浴を楽しめるスペースで、介助の必要な人には、洗い場が広く安心して入浴が楽しめる構造となっている。また、頻繁にお湯の入れ替えも行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体調に合わせて、活動・休息を本人のペースで行っている。空調の管理に気をつけている。	身体状況や本人の意向を聞き行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルにその都度、処方される薬の説明書を綴じてあり確認ができるようにしてある。薬の変更等があった場合は引継ぎノートで連絡し確認後、職員に判を押してもらい周知徹底に努めている。	事務所の個別ファイルで確認できるようになっており、変化があった場合引継ぎノートでの伝達確認印を押している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力に応じ、清掃・洗濯たみ等役割を持って生活できるよう支援している。料理上手な利用者には積極的に調理に参加していただいている。	洗濯たみ、テーブル拭き、清掃等を職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の心身の状態に応じ、買い物・外食・散歩等行っている。地域の祭りに自治会の方々のお手伝いのもと、盆踊りなど各利用者についていただき、参加させていいただいている。	散歩やドライブ等、気分転換を図ったり、化粧品、衣類の買い物支援をしている。定期的に家族と外出できるよう協力していただいている。	玄関前は、交通量の多い道路に面しており、危険防止のため外に自由に出かける利用者は少ない。施設内に、中庭や広いリビングがあり、施設内で過す時間が多いようである。また利用者ごとに常に付き添える職員の数人が少なく、外出の機会が少なくなっている。	法人の大型バスがあるので、家族やご近所の協力得て、定期的な外出機会を計画し、日常のレクリエーションとは違う環境を楽しんで欲しい。女性ばかりのケア環境なので、男性からのサポートも取り入れられることも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に応じ、自己管理されている方もおられる。管理できない方でもお金を使用する機会を作り支援している。	一緒に買い物に出かけた際には、本人にお金を渡し、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、自ら掛けられる状態にある。届いた手紙等返事を書く支援をしている。家族から電話が掛かった際には少しでも本人に代わり会話を勧めている。	公衆電話で自由に電話をかけることができる。家族からの電話を本人につなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・洗面所等は天窓から自然の光が入るようになっており、天気や季節を感じ取れるようになっている。毎日、利用者と共に清掃を行い、常に清潔を保っている。	季節感を感じてもらえるよう花を飾ったり、照明を暖色系にし、落ち着いた室内になるよう努めている。	2ユニットのリビングを利用した広いスペース造りで、交流しながらさまざまなレクリエーションを楽しんでいる。通路は、天窓から太陽光が入る構造で、自然光がやさしく注いでいて癒される雰囲気である。ミニ運動会のようなレクリエーションで、競争できるゲームを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、談話したりくつろげるスペースが用意されている。テラスにはテーブルセットがあり風景を楽しむことができる。	玄関前にはロッキングチェア、リビングにはソファを設置。中庭にはベンチを置き、思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具、馴染みのある物を家族に持ってきていただくなど過ごしやすい居室作りに努めている。	本人や家族と相談しながら、馴染みのある家具を持ってきてもらい居心地の良い空間となるよう工夫している。	利用者の部屋の入り口には、それぞれ個人を尊重した表示をするなど工夫している。また、部屋のドアはとても優しい動きの自動ドアを取り入れている。室内には施設や家族からのクリスマスプレゼントなどで飾られ、仏壇や炬燵を持ち込んでいる利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は利用者の身体状況に応じた家具の配置にしており、共有の場所は安全を重視した配置にしてある。建物内はバリアフリー、手すりを設置している。	玄関、トイレ、廊下等、バリアフリーになっており、手すりを設置している。		